

九 Kの自殺

1. 進もうかよそうかと考える。
 - ・ Kに謝るか謝らないか。
2. この晩の様子
 - ・ 偶然西枕に寝ている。
 - ・ この間と同じように襖が開いている。
 - ・ Kが向こうむきに突っ伏している。
3. 私の様子
 - ・ 棒立ちに立ちすくむKの告白
 - しまったと思ったKの告白
 - ・ 取り返しのつかない黒い光が全生涯を照らした。
 - 私がKを自殺に追い込んだ罪
 - ×Kに済まないという気持ち
 - 遺書を発見して読む。
 - ・ 予期したことは書いてなかった。
 - 私のせいで自殺した
 - 助かったと思った。
 - 奥さんやお嬢さんに私の悪事がばれないから。
 - ×Kに対する罪悪感
4. Kの遺書
 - e. 薄志弱行で生きていく望みがない。
 - f. お嬢さんの名前がない。
 - g. もっと早く死ぬべきだった。
5. 自殺するまでのKの不可解な点
 - a. 「覚悟」の意味。
 - b. この間の晩に襖を開けた理由。
 - c. 婚約を知った時の落ち着いた驚きの理由。
 - d. 襖を開けて自殺した。
6. Kの遺書を読んだ後の私の行動
 - みんなの目につくように元通りに置いた。
 - ・ 自分に不利な事が書いていないので、読んでもらったほうが疑いが晴れる。
 - 振り返って襖の血潮を見た。
 - ・ 初めてKの死そのものを受け止めた。